

納税者目線の
京都党 だから言える！

職員給与と議員報酬アップに反対！

2月議会の冒頭、2年連続で公務員給与の引き上げ案が議会に提示をされました。市の説明では、「民間給与が上がっているため、それに合わせて引き上げる」というものでした。しかも、それに伴って議員報酬も引き上げるとの提案もなされていたのです。京都市は特別な財源対策が必要なほどの財政状況下であるため、**京都党は議員報酬の引き上げも含め反対**をしました。職員給与は人事委員会勧告に基づいて定められていますが、比較対象の事業規模は大企業のみで、市内の純粋な景況感とは結びついていません。単なる官民の給与比較ではなく、自治体財政の状況に応じた判断が必要です。しかし、この議案は自民・共産・公明・民主・無所属議員の賛成多数によって可決されました。



代表質問の直後、怒りの反対討論を行いました

リニューアルしました！

「京都市会議員 森かれん公式サイト」をリニューアルいたしました。新たにブログも始めましたので、文章中心の活動報告はこちらで更新いたします。

Facebookについては写真付きの報告を更新します。「森かれん」で検索いただき、活動報告をご覧ください！



経歴

- 平成2年2月11日生まれ 翔鸞学区在住(柏西町)
- 翔鸞小学校、衣笠中学校、朱雀高校
同志社大学政策学部 卒業
- 中学から大学まで10年間吹奏楽に携わる
(チューバを担当、大学ではマーチングも経験)
- (株)堀場製作所を経て京都党村山祥栄政治塾を修了
- 京都市議会議員選挙(上京区)において
4227票を頂戴し初当選 暮らし環境委員会所属

街頭での市政報告

不定期ですが、平日の朝8時から市政に対する想いや意見などをお話しています。見かけてくださったら、手を振ってのご声援などをいただくと嬉しいです！

【主な場所】
堀川今出川
千本丸太町
烏丸今出川
北野白梅町
など



Genki-morimori
Report

市政活動 報告書

発行：森かれん事務所
平成28年4月25日発行

京都市会議員

森かれん

元気モリモリ通信 Vol.2

議会活動報告(中面)

- ◆空き家対策について
- ◆ロームシアター京都について

コラム(裏面)

- ◇職員給与と議員報酬アップに反対
- ◇森かれん公式サイト リニューアル



言い続けること、戦い続けること

「未来の世代にツケを先送りしない！」
常この言葉を意識して議会活動に邁進しております。市債をどんどん発行し、未来の世代に負担を押し付けるのではなく、京都市の収入規模に見合った事業計画を立てて執行することで持続可能な都市経営を行う必要があります。

そのためには、古い体質や時代に合わない制度や慣習を打破しなければなりません。それらを打破するためには正論を言い続け、戦い続けなければなりません。非常にエネルギーのいることですが、京都の未来のためにこれからも元気モリモリ市政改革に取り組みます！

森かれん

森かれん事務所

〒602-8384
京都市上京区紙屋川町1038-22

TEL: 075-366-6341

FAX: 075-366-6342

mail: morikaren@kyoto-party.com

議会活動報告

平成28年度の予算審議をメインとする2月議会が開かれました。京都党は各事業の妥当性を厳しく予算特別委員会で追及した上で、提出された予算案に賛成いたしました。私は、2月議会において議員として初めてとなる代表質問の機会を頂き「空き家対策」・「ロームシアター京都のコンセプト実現に向けて」の2つのテーマについて市長に対し質問しました。

渾身の代表質問① 空き家の解体・除却を促進するための提案

空き家増加を食い止める方法の1つとして「解体・除却」を推し進める必要があります。そのためには、「過去に制定された法律や制度によって矛盾を生じている点は早急に対処すべき」と考え下記2点（◆）を市長に要望、提案しました。

◆固定資産税の軽減措置見直しを国に要望せよ！



固定資産税は200平方メートル以内の住宅用地として建物が建てられている場合、課税標準の限度を1/6にする軽減措置が取られています。そのため「誰も住む予定のない家を解体し更地にしたいが、固定資産税が上がるので解体に踏み切れない」というお声をよく耳にします。住宅用地軽減措置が設定された当時とは住環境が大きく変化しているにも関わらず制度だけが残っているのは疑問です。

①徴税を担う地方自治体から国に対して住宅用地減免措置について見直しを声を上げること

②空き家を除却した後の更地については、負担を軽減する経過措置を設けるべき

上記2点を要望しました。

◆再建築不可物件を安全性を確保した上で再建築可能にすべき

路地のある町並みが多く残る京都市では「家に接する通路幅が建築許可基準に届かず再建築不可」とされることで空き家予備軍になる家があります。しかも、京都市の制度を活用すれば再建築できる可能性があるにも関わらず、制度が複雑化していて専門知識がないと活用しづらいという問題もあります。1軒でも多く再建築不可物件を再建築可能にしたいという思いをこめて、下記2点を京都市に提案をしました。

①優先地区は防災面を配慮した建築条件を付与した上で建築基準法第43条但し書き許可において通路幅員1.2m以上から建て替え可能にしてほしい

②細街路に関する制度を市民に分かるように説明した概要版を行政広報すべき



渾身の代表質問② 造って終わりでは意味がない！ロームシアター京都

劇場という「ハコ」を造っても、市民の皆さまの興味を引き付ける演目を上映し続けなければ観客は増えません。さらに、ロームシアター京都の周りにはすでに一流の劇場が存在しているため、独自性を発揮できなければ赤字を垂れ流すだけのハコモノになりかねません。そのような事態を避けるためには、ロームシアター京都独自の自主公演が上映できる体制づくりが必要です。



◆芸術監督設置の必要性

芸術監督（指揮者 佐渡裕氏）を設置している兵庫県立芸術文化センターでは、芸術監督を中心に自主公演のプログラムが製作されています。今まで多くの市民から遠い存在であったクラシック音楽を自主公演の軸にして「チケットが売り切れる劇場」のブランディングに成功するだけでなく、オープンから10年で観客動員数約450万人を突破しています。ロームシアター京都では、バラエティーに富んだ幅広い演目を提供できるようにと芸術監督を設置していません。独自性を発揮する自主事業を積極的に取り入れるためには専門性の高い芸術監督が劇場運営に必要であると訴えました。

◆フランチャイズ制の導入（劇場と芸術団体との連携制度）

舞台芸術が盛んな欧米では、多くの劇場が専属の芸術団体を保有しています。フランチャイズ制のメリットは、芸術団体にとっては同じ場所で安定的に練習できるため、表現の質の向上が期待でき、劇場側にとっても継続的な公演実施によって地域での観客開拓や文化教育に大きな力を発揮できるにあります。ロームシアター京都にもすぐに導入すべきです！

これがほんとの行政視察！

東京都足立区



他都市の先進事例を知るために、現地視察を要する場合があります。東京都足立区では条件を付加した上で、独自に建築基準法但し書き許可の一部を緩和する等の「無接道家屋建て替え促進に対する仕組みづくり」を実施しています。東京都が「危険区域」とする場所は通路幅1.5mから1.2m以上にまで基準を引き下げ、従来基準では再建築不可物件だった家屋の建替えを可能にした取り組みについて実際の制度運用状況を教えていただきました。その上で、京都市でも導入できるのではないかと考え、代表質問で提案しました。